

## 1 主 題

## 『一人ひとりの確かな学力の向上をめざして』

## － 基礎・基本の習得と活用力の向上 －

## 2 目 的

学力の要素として、「基礎的・基本的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学習意欲」が改訂学校教育法や新学習指導要領の中で明確に示された。今、生徒に「生きる力」を育むために、基礎的・基本的な知識・技能と、これらを活用して課題を解決する能力とは、車の両輪のように相互に関連させながら伸ばしていくことが求められている。また、その際に言語活動の充実と学習習慣の確立が大切であるとされている。

本校の生徒は、真面目に学習に取り組み、部活動や学校行事にも意欲的な者が多い。しかし、一方では学習態度が受け身になりがちで、学習課題の解決に根気強く取り組もうとする姿勢が弱い面も見られる。そのことは、全国学力・学習状況調査や石川県基礎学力調査にも結果として表れており、「情報を基に伝えたい内容を書くこと」が弱いなど、既習の知識・技能を活用する力に課題が見られた。

以上のような社会的要請と本校生徒の実態を踏まえ、「基礎・基本の習得と、活用力の向上を図ることによって、確かな学力を向上させること」が本研究の目的である。

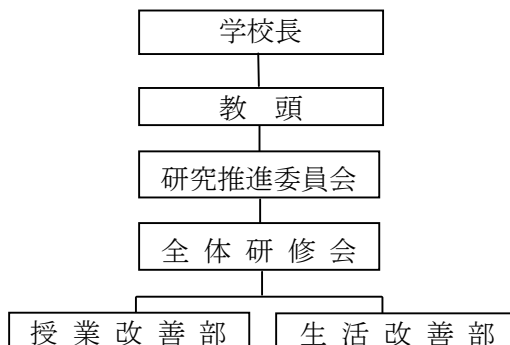
また、本校は平成20・21年度「児童生徒の『活用力』向上モデル事業」の指定を受けたことから、「活用力の向上」を中心にこの間の研究を進めてきた。

## 3 方 法

- (1) 授業改善 … ① 活用型」の発問を取り入れた授業実践  
② 課題解決型の授業実践
- (2) 生活改善 … ① 学習習慣の確立  
② 学習環境の整備



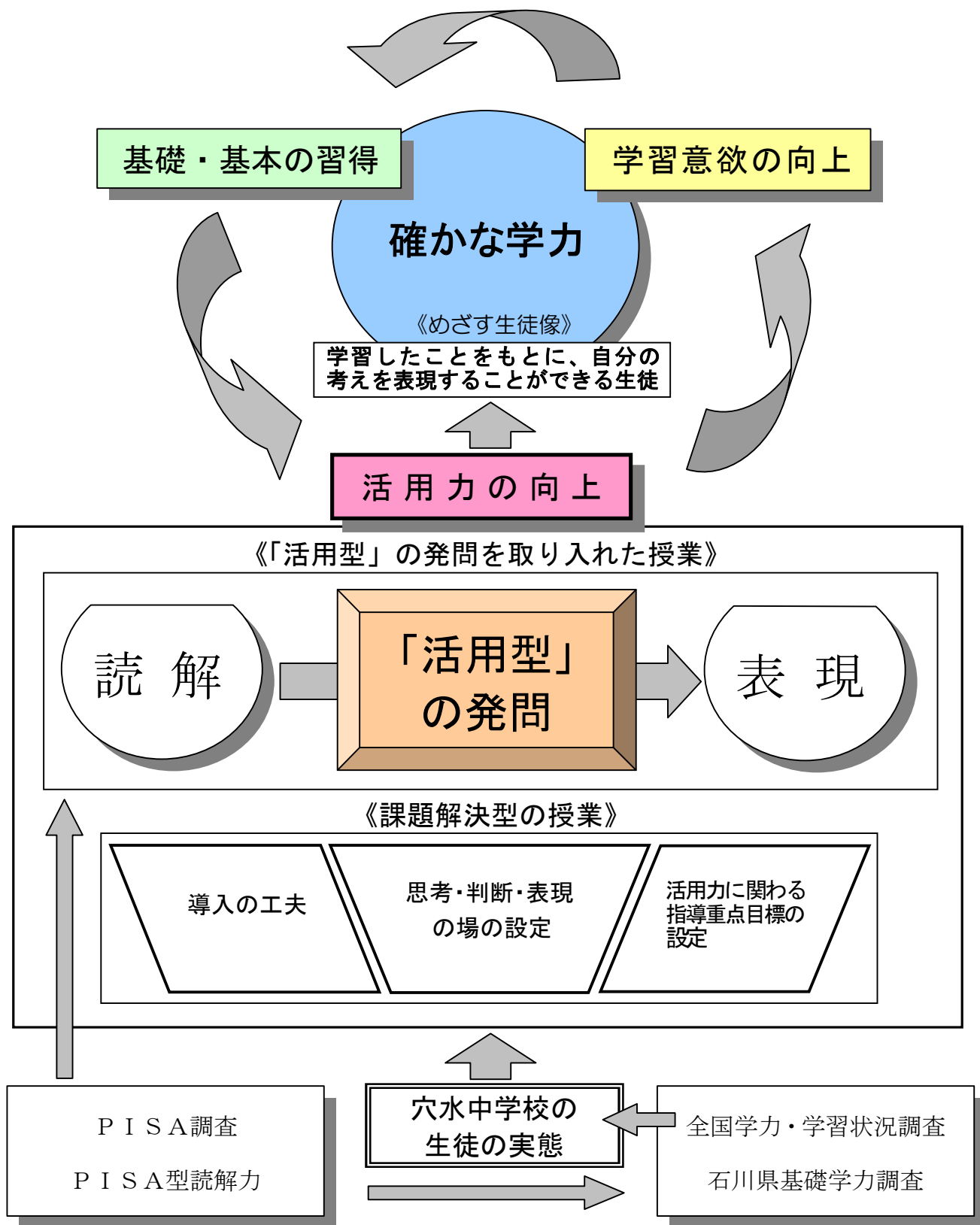
## 4 組 織



- 研究推進委員会…研究推進のための企画・立案、各部会の連絡調整
- 全体研修会…各研究部の実践についての検討・協議・共通理解
- 授業改善部…授業改善に向けた取り組みの実践
- 生活改善部…学習習慣の確立、学習環境の改善に向けた取り組みの実践

研究主題

『一人ひとりの確かな学力の向上をめざして』  
－ 基礎・基本の習得と活用力の向上 －



## 6 内 容

### (1) 授業改善の取り組み

#### ① 「活用型」の発問を取り入れた授業実践

本校では、「テキストから読み取ったことを根拠に挙げて、自分の考えを論理的に表現すること」を求める発問を、「活用型」の発問として授業に取り入れた。



近年実施されたPISA調査や全国学力・学習状況調査の結果などから、「読解力」や「知識・技能を活用する力」の不足が指摘され、日本の教育の今日的課題となっている。同様な傾向は本校の基礎学力調査等の結果にも表れており、情報の分類・整理や、情報を基に書くことに弱さが見られた。

また、PISA調査は「読解の知識や技能を実生活の様々な面で直面する課題においてどの程度活用できるかを評価することを目的としており、これは現行学習指導要領がねらいとしている『生きる力』『確かな学力』と同じ方向性にある」（文部科学省「読解力向上プログラム」平成17年12月）ことから、いわゆるPISA型読解力（Reading Literacy）と活用力は、その意味合いにおいて相通ずるものと考えられている。PISA型読解力は、読解と表現を一体のものとして捉える「いわば読解表現力」（有元秀文氏）なので、思考力・判断力・表現力を三位一体で働かせることが求められる。しかし、従来の日本の教育では、そのような指導がなされることはあまりなかった。このことが、活用力の弱さの要因と見られている。

そこで、本校ではPISA型読解力における「熟考・評価」の問いに相当する発問を「活用型」の発問として位置づけ、授業実践に取り組んできた。「活用型」の発問を取り入れた授業では、次のような活動を展開する。

- 1 テキストから情報を読み取る  
テキスト（文章や図表、映像その他の資料、実演等）から読み取れる事実、特徴や傾向、筆者の意見等の情報を正しく理解する。
- 2 自分の考えとその根拠を書く  
自分の立場を明らかにしたり、自分の考えを述べたりといった言語活動を行う。ただし、その根拠をテキストから挙げる。
- 3 自分の考えを表現する  
自分の考えを「話す」「発表する」「つくる」「描く」「歌う」「奏でる」「実験する」「観察する」「演技する」「運動する」などの方法で表現する。

そして、1の読解と2、3の表現とをつなぐのが「活用型」の発問である。

「活用型」の発問は、「あなたはどうか考えるか」「あなたならどうするか」「あなたは賛成か反対か」「あなたはどれを選ぶか」という問いで、多様な考えを求める。

「あなたは」という問いにこだわるのは、自分なりの考えを自分の言葉で表現することを重視するからであり、そういう視点が従来の指導に不足していたからである。つまり、活用力の発揮が求められる発問をし、知識や技能を活用する経験を多くさせれば、自分の課題を解決できるようになり、活用力は向上すると考えた。

そして、指導案を立てる際の手助けとして、次のようなワークシート【資料A】を利用した。

## 【資料A】 「活用型」の発問のワークシート

読	解	→	表	現
テキストの提示	情報の読み取り	「活用型」の発問	言語活動	表現活動
文章や図表 画像や映像 実物や実演 などを提示します。	テキストから正しく 読み取った情報が、 自分の考えの根拠 になります。	「あなたはどうか考えるか」 「あなたならどうするか」 「賛成か反対か」「どれを 選ぶか」などの発問で多 様な考えを求めます。	ワークシートに記入 する、ノートに書く、 作文を書くなど、書 くことで自分の考え と根拠を整理します。	発表する、つづる、描く、実 験する、観察する、話す、 書く、演奏する、歌う、運 動する、演技するなど 自分の考えを表現します。
(記入例) ・パスのポイント を示した図 やプリント ・パスの師範ビ デオ	<u>正しいパスの方法</u> ・オーバーハンドパ ス(額の上で三角形 を作り、膝・肘・手 首を使って上げる) ・アンダーハンドパ ス(肘を伸ばして、 当たる瞬間に肘をし める。腕は大きく振 らない)	<u>&lt;自分やチームメ イトのパスの問題 点を見つけ、どう すればうまくでき るようになるか考 えよう&gt;</u>	・ワークシート に記述する	・ペアでパス練 習を行う ・発表する

## 【資料B】 「活用型」の発問を取り入れた授業例 (保健体育2年「バレーボール」)

展 開	35	5 正しいパスの方法やポイントを理解する。 ・図(プリント)による理解 ・動画(ビデオ)による理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の視点を絞らせてから見せる。</li> <li>●パスの課題や解決方法を見つけることができる。(行動観察、学習プリント)</li> <li>○改善点が分からないペアや練習がうまくいかないペアには助言し、練習を支援する。</li> <li>・課題解決の流れを説明させてから、実際に改善したパスをさせる。</li> <li>・三段攻撃の数を得点係に記録させ、反省に生かさせる。</li> </ul>
		6 自分やチームメイトのパスの課題を見つけ、改善する。 <u>&lt;自分やチームメイトのパスの問題点を見つけ、どうすればうまくできるようになるか考えよう&gt;</u> ・オーバーハンドパス 手の形ができていない 額の上まで引き付けていない ボールの真下に素早く移動していない ・アンダーハンドパス 肘が曲がっている 腕を大きく振っている 膝が曲がっていない	
		7 改善できた生徒のいるグループが全体場で発表する。	
		8 ゲームを行う。 (8分間×2ゲーム)	

## 【資料C】 「活用型」の発問例

- <あなたが農民なら、どのような行動をとりますか。> (1年社会)
- <水は茎のどの部分を通っているのでしょうか。そう考えた理由も書きましょう。> (1年理科)
- <あなたはどこをどのように工夫して演奏しますか。その理由も書きなさい。> (1年音楽)
- <あなたならどの文字を、どのように表現するか考えましょう。> (1年美術)
- <5つの雨温図を見て、あなたの住みたい場所はどこか。根拠を示して説明しよう。> (2年社会)
- <熱中症予防のパンフレットを完成させましょう。また、コメントの理由も発表しましょう。> (2年保健)
- <メディアの読み書きを身につけるために、自分ならどんなことができると思いますか。> (3年国語)